

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

1. 自分の意見を堂々と言える能力の育成
2. 得意技を身につけさせる
3. 進路指導の強化

2 中期的目標

1. 学力を向上させる

- (1) グローバル科及び現在普通科に設置しているグローバルコースを軸に、より高い志と実力を兼ね備えた人材を育成する。
- (2) 学習の目標を明確に理解させる
- (3) 学習・部活・行事のバランスのとれた教育活動を推進する。
- (4) 少人数展開授業により学習理解を深化させる。
- (5) 3年生において入試対策に向けた学習がより効果的に進められるよう、1・2年生の学習内容の定着を図る。
- (6) 学力向上に向け、家庭との連携を深める。
- (7) 土曜日を学習活動のために有効活用する。
- (8) 教員の授業力を向上させる。

※教育産業模試(11月)の偏差値平均

	<1年グローバル科>			<1年普通科>			<2年グローバル科>			<2年普通科>		
	国	数	英	国	数	英	国	数	英	国	数	英
平成 27 年度	55 以上	53 以上	58 以上	53 以上	52 以上	52 以上	55 以上	53 以上	58 以上	53 以上	52 以上	52 以上
平成 28 年度	55 以上	53 以上	58 以上	53 以上	52 以上	52 以上	55 以上	53 以上	58 以上	53 以上	52 以上	52 以上
平成 28 年度	については学力検査において第 2 希望を認めているので、その状況により数値を見直す可能性もある。											

*は、3年生で数学が必要な生徒対象

※学校教育自己診断（授業外の学習機会）に対する生徒の肯定的回答 90%以上を毎年維持。

※家庭学習時間の目標を達成する。<1年生>グローバル科：18.5時間、普通科：12.5時間

(時間数は週単位)

<2年生>グローバル科：文系 19.5時間/理系 19.5~20時間、普通科：文系 14時間/理系 14.75~15.25時間

※12月の生徒による授業評価で、3ポイント(1~4ポイントで評価)以上の教員を、平成 26 年度以降 70%以上とする。

2. 論理的思考力、批判的思考力及び表現力を鍛え、他人を説得する力を身につけさせる

- (1) IM（グローバル科「学校設定科目」及び普通科「総合的な学習の時間」において開講）で論理的思考力及び批判的思考力育成する。
- (2) 各教科において、積極的に自分の意見を述べる態度を育成する。
- (3) 学校行事の企画を通して、問題解決能力や交渉力を醸成する。

※IMに対する生徒による授業評価 3ポイント以上を毎年維持（24年度 3.16ポイント/25年度 1年 3.20ポイント、2年 2.46ポイント/26年度 1年 3.2ポイント、2年 3.3ポイント）。

3. 得意技を身につけさせる

- (1) 総合的な英語力を身につけさせる事業を推進する。
- (2) 高大連携を推進し、より高度な学習への意欲を醸成する。

※TOEFL スコア	TOEFL iBT80 点/ITP550 点以上	TOEFL iBT60 点/ITP500 点以上	TOEFL iBT45 点/ITP450 点以上 (3年生受験者の得点)
平成 27 年度	複数名	5 名以上	30 名以上 (人数は累計/80名受験)
平成 28 年度	複数名	5 名以上	30 名以上 (人数は累計/80名受験)
平成 29 年度	複数名	5 名以上	30 名以上 (人数は累計/80名受験)

※留学生 10 名以上（短期含む）毎年維持。

4. 進路指導を強化する

- (1) 入学時から難関大学の合格難易度について情報提供し、自らの進路目標を立てさせる。
- (2) 定期的に学習習熟度を測定しながら、進路実現に向け支援する。
- (3) 「一流」を見せ、将来の進路を考えさせる。
- (4) 外部団体との連携により進路情報を提供し、進路選択を支援する。

※学校教育自己診断（きめ細かな進路指導）に対する生徒・保護者の肯定的回答を毎年 70%以上維持

※大学合格数 京大・阪大・神大・早大・慶大・上智・海外大等 / 大阪市大・大阪府大・同志社・立命・関学等/関大・和太等

平成 27 年度	10	75	120
平成 28 年度	10	75	120
平成 29 年度	10	75	120

5. 心身の障がいや家庭環境などの課題によって修学が困難な生徒を支援する

- (1) 支援チームを立ち上げ個別のケースに対応する。
- (2) 支援を必要とする生徒・保護者への相談体制を整える。
- (3) 教育相談室の活用を進める。

※学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）に対する生徒・保護者の肯定的回答 70%以上を毎年維持

6. 教育効果を向上させるため校務改革を実行する

- (1) 教科主任会を学習活動の軸に据える。
- (2) 企画会議及びグローバル委員会を中心に、学習効果をあげるための新しい施策を企画・実行する。
- (3) 公務の権限と責任所在を明確にし、校内連携を進める。
- (4) 学校協議会の提言を参考にしつつ、学校教育の改善を進める。

7. 広報活動の充実を図る

- (1) 学校パンフレット等の広報媒体を充実させる。
- (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
ほとんどの項目において昨年度より実現度の数値が上がっている。 本校の教育目標の1つである得意技を身につけるといふ生徒が少なく、これを増加させていくことと、家庭での勉強時間の不足をどうにかして増加させることが課題である。 また、記述部分でグローバル科と普通科で教育内容の丁寧さに差異があるような誤解があることがわかった。説明をしていく必要がある。	第1回 (5月 22 日) ①本校の教育目標に従って、計画通り事業を進めていくことを確認した。 ②学校の取組みが文系生徒に偏っているというふうを受け止められているので、理系生徒への取組みをしっかりと発信して欲しい。 第2回 (8月 28 日) ①夏休みの講習がたくさんしていて、生徒もほぼ毎日学校に来ていた。今後も続けて欲しい。 ②2学期以降の3年生保護者懇談で具体的なアドバイスができる準備をして欲しい。 第3回 (1月 7 日) ①スマホ依存の生徒が増加していると考えられる。対スマホのルール作りが必要である。 ②3学期の模試の在り方を考えていく。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学力を向上させる	<p>(1)</p> <p>①学校設定科目「英語超人」において実践的な英語力を育成する。</p> <p>②数学・英語・国語の力を伸ばす。</p> <p>③1年生から入試問題を視野に入れた学習を進める。</p> <p>(2)</p> <p>①学習の目標を明確にし、学習への意識を高める。</p> <p>②学習方法を示し、授業と家庭学習を無駄なく連動させて学習効果を上げる。</p> <p>(3)</p> <p>①家庭学習量の適性化を図る。</p> <p>②学年及び教科が戦略的に学習指導を行う。</p> <p>(4)</p> <p>①進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める。</p> <p>②英語のリスニング力やライティング力を向上させる。</p> <p>(5)</p> <p>①本校生徒として最低限必要な学力を定着させる。</p> <p>②1・2年生で入試の基盤となる学力の定着を徹底する。</p> <p>③学習到達度を把握し、授業内容を改善する。</p> <p>(6)</p> <p>①講習の日程をまとめた資料を保護者に通知する。</p> <p>②1・2年生において、平素の授業態度、課題の提出状況、小テストの結果等を保護者に通知する。</p> <p>(7)</p> <p>①1年生のグローバル科及び2年生グローバルコース全員対象に毎週の土曜講習を実施する。</p> <p>②土曜日の午前11時まで部活を制限し、全校一斉に学習活動に充てる。</p> <p>(8)</p> <p>①生徒による授業評価を活用し教員の資質を向上させる。</p> <p>②各教科で研究授業を実施し、授業改善を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>①学校設定科目「英語超人」において、TOEFLの高得点をめざす授業を実施し、英語の4技能(読・聞・書・話)の力を育成する。</p> <p>②数学・英語・国語の土曜講習を実施する。</p> <p>③各教科の学習進度を速め、1年生から平易な入試問題に取組ませることで入試への実践力をつけさせる。</p> <p>(2)</p> <p>①新入生ガイダンスを実施し、3年間を俯瞰した各教科の学習内容や目標・目的及び学習方法を理解させる。</p> <p>②新入生ガイダンスにおいて、各教科担当者が授業の進め方や家庭での学習時間の枠を意識した家庭での学習方法について説明を行う。</p> <p>(3)</p> <p>①学年主任及び教科主任が連携し定期的に家庭学習量を調査し、家庭学習量の適性化を図る</p> <p>②定期考査、テスト、学習生活実態調査、及び模擬試験の結果を学年及び教科が共有し、学習指導や生活指導を効率的に進める</p> <p>(4)</p> <p>①数学Ⅱにおいて進路別少人数に講座編成する。英語表現Ⅰにおいて習熟度別少人数鋼材編成をし、文法力・リスニング力の強化を図る。</p> <p>②「英語超人」及び英語表現ⅠにおいてLL機器を活用しリスニング力の強化を図る。また、NETによる英作文の添削によりライティング力を向上させる。</p> <p>(5)</p> <p>①1, 2年生の各定期考査において、成績不振者に対する補習及び確認テストを行う。</p> <p>②1, 2年生では、小テスト等の成績や宿題等の提出状況が悪い生徒は、放課後において課題に取り組ませる。</p> <p>③1・2年生においては学習生活調査及び模試の結果を分析し、生徒に定着していない学習内容を把握した上でその後の授業内容を改善する。</p> <p>(6)</p> <p>①各学期及び長期休業前に講習日程を生徒に通知するとともに、保護者にもメール等で通知する。</p> <p>②1・2年生において、6月・11月の保護者懇談会において通知する。9月に保護者あてに郵送する。</p> <p>(7)</p> <p>①1, 2年生グローバル科の生徒を対象に、国語、数学、英語の演習を中心とした講習を毎週土曜日の午前中にそれぞれ2コマずつ実施する。</p> <p>②土曜日の午前11時までの時間を活用し、普通科の希望生徒を対象に講習を実施する。</p> <p>(8)</p> <p>①授業評価を1学期末と2学期末実施し、1・2学期末において授業評価が思わしくない教員は、授業改善計画を作成し授業改善に努める。</p> <p>②教員相互の授業見学期間を設定し、お互いの指導方法について検討し、授業改善を図る。</p> <p>③国・数・英・社・理の各教科において、若手とベテラン教員による研究授業をそれぞれ1回以上実施し、授業改善を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>①②③教育産業模試(11月)偏差値平均 1年グローバル科 国 55 以上/数 53 以上/英 58 以上 (昨年度国 54.7 数 51.6 英 56.5) 2年グローバル科 国 55 以上/数 53 以上/英 58 以上 (昨年度国 52.3 数 48.7 英 54.5) ②年間実施回数 20 回以上</p> <p>(2)</p> <p>新入生ガイダンスの実施後のアンケート結果、肯定的な回答 90%以上</p> <p>(3)</p> <p>適当りの家庭学習時間校内平均 <1年生> グローバル科：18.5 時間 普通科：12.5 時間 <2年生> グローバル科：文系 19.5 時間/理系 19.5~20 時間 普通科：文系 14 時間/理系 14.75~15.25 時間 <3年生> 進路目標により学習時間が違うため指標設定しない。</p> <p>(4)</p> <p>①教育産業模試(11月)数学の学年平均偏差値 グローバル科 数学 53 以上英語 58 以上 (昨年度数 48.7 英 54.5) 普通科 数学 52 以上英語 52 以上 (昨年度数 47.9 英 49.8) ②2年生のセンター試験リスニング模擬受験結果、校内平均 22 点以上</p> <p>(5)</p> <p>①学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答 90%以上</p> <p>②③ 教育産業模試(11月)偏差値平均 1年生普通科 国語 53 以上/数学 52 以上/英語 52 以上 (昨年度国 52.2 数 51.8 英 50.6) 2年生普通科 国語 53 以上/数学 52 以上/英語 52 以上 (昨年度国 48.3 数 47.9 英 49.8)</p> <p>(6)</p> <p>①学校教育自己診断「進路に関する情報提供」に対する保護者の肯定的な回答 80%以上 ②家庭学習時間 上記(3)を参照</p> <p>(7)</p> <p>①② 教育産業模試(11月実施)偏差値平均 1年グローバル科 国 55 以上/数 53 以上/英 58 以上 (昨年度国 54.7 数 51.6 英 56.5) 1年普通科 国 53 以上/数 52 以上/英 52 以上 (昨年度国 52.2 数 51.8 英 50.6) 2年グローバル科 国 55 以上/数 53 以上/英 58 以上 (昨年度国 52.3 数 48.7 英 54.5) 2年普通科 国 53 以上/数 52 以上/英 52 以上 (昨年度国 48.3 数 47.9 英 49.8)</p> <p>(8)</p> <p>生徒による授業評価 「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている。」「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」という問いに対して「そう思う」...4、「だいたいそう思う」...3、「あまり思わない」...2、「思わない」...1での評価の2項目の平均 12月の授業評価で、3ポイント以上の教員が70%以上</p>	<p>(1)</p> <p>1年グローバル科 国語 54.6/数学 53.7/英語 59.5 2年グローバル科 国語 51.9/数学 51.2/英語 56.7 ただし、2年数学は来年度数学を選択する生徒。 1年はほぼ目標を達成したが2年生は目標を達成できなかった。(△) ②国語2回、数学30回、英語10回(◎)</p> <p>新入生ガイダンスの実施後のアンケート結果、肯定的な回答 90.7% (○)</p> <p>(3)</p> <p><1年生> グローバル科：7.7 時間 普通科：6.5 時間 <2年生> グローバル科：文系 6.0 時間/理系 6.7 時間 普通科：文系 7.6 時間/理系 7.5 時間 1年生は昨年度より良い数値を得ているが、目標には達していない。2年生は土曜講習の影響もあり、休日の学習時間が普通科に比べて少ない。(△)</p> <p>(4)</p> <p>①グローバル科 数学 51.2 英語 56.7 普通科 数学 51.5 英語 48.9 ただし、来年度数学を選択する生徒効果は十分に見られるものの目標は達成できなかった。(△) ②2月受験予定 校内平均 22.9 点 (○)</p> <p>(5)</p> <p>①87.3% (△) かなりな回数実施しているが、自分に必要な補習という事で、90%を少し割り込んだ。 ②③(△) 1年生普通科 国語 51.4/数学 50.9/英語 51.1 2年生普通科 国語 51.3/数学 51.5/英語 48.9</p> <p>(6)</p> <p>①80.7% (○) 昨年度 78.8% ②送付は9月実施した。家庭学習時間の飛躍的な改善にはつながっていないが、家庭との連携は大切なので今後も継続する。(△)</p> <p>(7)</p> <p>①② (△) 1年グローバル科 国語 54.6/数学 53.7/英語 59.5 1年生普通科 国語 51.4/数学 50.9/英語 51.1 2年グローバル科 国語 51.9/数学 51.2/英語 56.7 2年生普通科 国語 51.3/数学 51.5/英語 48.9 ただし、2年数学は来年度選択する生徒。</p> <p>(8) (◎)</p> <p>3ポイント以上 78 名中 63 名 80.8% 生徒からの評価は確実に高くなっている。 非常勤職員で評価の低い割合が高い。教諭と常勤講師のみだと 89.1%となる。 評価の低い教員に授業改善に取り組ませていく。</p>

府立和泉高等学校

<p>2. 問題を身につけさせる 論理的思考力、判断力、及び他人を説得する</p>	<p>(1) ①論理的思考力・批判的思考力を育成する。 ②説得力のある論理的な文章を作成する能力を育成する。</p> <p>(2) ①教科学習の中で問題を解く力を育成する。 ②特別企画の中で、多角的な情報収集による判断力や説得力を育成する。</p> <p>(3) ①学校行事の充実</p>	<p>(1) ①論理的思考力・批判的思考力を育成するための教材を作成し、筋道を通った伝え方、筋道を通らない意見への指摘の仕方を学ぶ。 ②論理的な組み立てによる小論文作成力を習得させ、学校設定科目「グローバル情報」及び「社会と情報」と連携してパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。</p> <p>(2) ①教科指導において知識伝達のみ重点をおかず、解法の糸口を見つける力を育むよう授業内容を工夫する。 ②(ア)特別企画の実施や「正解がひとつではない」問題の思考の機会を積極的に与える。 (イ) 2年パラオ修学旅行において日本・台湾・パラオの高校生による自主企画を実施する。また、国内修学旅行において地元高校生との交流を行う。 (ウ) 1学期末考査後にトロピカルデー（この日は制服ではなくトロピカルであることを説明できる服装で登校してもよい）を設ける。</p> <p>(3) ①行事を維持するのではなく、深化発展させる方策を考えさせる。</p>	<p>(1) ①② IMに対する生徒による授業評価3ポイント以上</p> <p>1年生全員が、自分が興味関心のある事項について自分の意見をプレゼンテーションソフトで発表できるようになる。</p> <p>(2) ①生徒による授業評価1.（8）参照</p> <p>②実施後のアンケートで肯定的な回答 90%以上</p> <p>(3) 企画書の充実(各行事の実施後のアンケート肯定的意見 90%以上)</p>	<p>(1) (◎) ①② 1年生 3.3(昨年度 3.2) 2年生 3.5(昨年度 3.3) 一昨年度は1年次で学んだ事を教科に活用する2年での授業評価が低かったが、研究を重ね昨年度同様2年生でも評価が高かった。</p> <p>(2) ①(◎) 1.（8）と同じ ② (ア)(◎)96.2%ハーバード大学生との討論会を実施した。 (イ)(◎)100% (ウ)アンケート実施せず。</p> <p>(3) (○) 体育祭 99%文化祭 90% 合唱コンクール 93%</p>
<p>3. 得意技を身につけさせる</p>	<p>(1) ①総合的な英語力を身につけさせる事業を推進する。</p> <p>(2) ①高大連携を推進する。</p>	<p>(1) ①(ア)グローバル科に学校設定科目「英語超人」を履修させ、世界基準の英語能力検定であるTOEFLにおいて高得点取得をめざし学習させる。 (イ)TOEFLテストを受験させる。 1年グローバル科 TOEFL ITP レベル 2（8月・1月） 2年グローバル科 TOEFL ITP レベル 1（8月・1月） 3年グローバル科 TOEFL iBT 又は ITP レベル 1(10月まで) (iBT チャレンジを含む)</p> <p>(ウ) 週3日朝の8:00～8:30まで外国人英語補助教員によるコミュニケーション英語講座を開講する(長期休業中及び考査期間中は除く)。 (エ) 留学生の積極的な受入れ及び外国からの訪問団の受入れを行う。 (オ) オーストラリア語学研修(7月)・英国交換留学(3月・10月)・ハワイへの訪問(7月)を実施する。</p> <p>(2) ①(ア) 大学教員の講義を受講させる。 (イ) 科学部の和歌山大学との共同研究を実施する。</p>	<p>(1) ① (ア)～(ウ) 1年グローバル科（1月まで） TOEFL ITP レベル 2（500点満点） 440点以上 複数名 / 420点以上 10名 / 400点以上 20名以上(人数は累計) (昨年度 440以上 5名 420以上 6名 400以上 14名) 2年グローバル科（1月まで） TOEFL ITP 550点以上 1名 / 500点以上 複数名 / 450点以上 15名以上(人数は累計) (昨年度 500以上 1名 440以上 21名) 3年グローバル科（80名受験の場合） TOEFL iBT 80点 / ITP 550点以上 複数名 TOEFL iBT 60点 / ITP 500点以上 5名 TOEFL iBT 45点 / ITP 450点以上 30名 (人数は累計) (昨年度 iBT 60点 / ITP 500点以上 2名 iBT 45点 / ITP 450点以上 35名) (エ) 留学生 10名以上(短期含む) (オ) 実施後のアンケートで肯定的な感想 90%以上</p> <p>(2) ①5回程度実施</p>	<p>(1) ①(ア)～(ウ)(○) 1年グローバル科（1月まで） TOEFL ITP レベル 2（500点満点） 440点以上 6名 420点以上 16名 400点以上 31名 2年グローバル科（1月まで） TOEFL ITP 550点以上 1名 500点以上 2名 450点以上 14名 3年グローバル科（iBT チャレンジ 30名 / ITP 50名受験） TOEFL iBT 80点 / ITP 550点以上 0名 TOEFL iBT 60点 / ITP 500点以上 2名 TOEFL iBT 45点 / ITP 450点以上 25名 (エ)(○) 短期 英国留学生 7名 短期 カナダ 16名 長期 米国留学生 1名 長期 オランダ 1名 また、海外からの訪問団をこれより別に1校受け入れた。 (2) (○) 大阪教育大学連携年 2回 科学部と和歌山大学との連携年 10回</p>
<p>4. 進路指導を強化する</p>	<p>(1) ①入学時から各大学の偏差値の情報を提供する。 ②入学時から進路目標を立てさせる。</p> <p>(2) ①学力生活実態調査や外部模試を活用し、進路実現に向け、戦略的な教科指導を行う。</p> <p>② 学力生活実態調査や外部模試の結果から現在の学力と進路目標との距離を把握させ、学習への意欲を高めさせる。</p>	<p>(1) ①新入生オリエンテーションにおいて難関大学の偏差値表を配布し難易度や難関大学をめざすことの意味を説明する。 ②1年生において5月に進路HRを持ち、自分の進路目標を設定させる。 1年生全員を校外で教育産業等が主催する進路説明会等へ参加させる。</p> <p>(2) ①(ア) 1, 2年において学力生活実態調査を年1回(4月)実施する。正答率が悪かった問題について各教科で解説するとともに、生徒の弱点を分析しその後の教科指導の戦略を練る。 (イ) 1・2年生において外部模試を年2回(7月・11月)に実施し、正答率が悪かった問題について各教科で解説するとともに、生徒の弱点を分析しその後の教科指導の戦略を練る。 ② 1・2年生においては学力生活実態調査及び外部模試の結果と志望大学学部との距離を把握させ、担任が個別の進路指導を行う(9月・11月)。3年生においては、外部模試の結果を基に担任が個別の進路指導を行う(7月・12月及び随時)</p>	<p>(1) ①② ・進路情報の提供に対する肯定的回答 生徒 80%/保護者 80% ・進路相談に対する肯定的回答 生徒 70%/保護者 70%</p> <p>(2) 教育産業模試(11月)偏差値平均 1年グローバル科 国 55以上/数 53以上/英 58以上 (昨年度国 54.7 数 51.6 英 56.5) 1年普通科 国 53以上/数 52以上/英 52以上 (昨年度国 52.2 数 51.8 英 50.6) 2年グローバル科 国 55以上/数 53以上/英 58以上 (昨年度国 52.3 数 48.7 英 54.5) 2年普通科 国 53以上/数 52以上/英 52以上 (昨年度国 48.3 数 47.9 英 49.8)</p> <p>27年度大学センター試験の結果 各科目とも偏差値平均 52以上</p> <p>27年度入試における難関大学現役合格数 (超難関大学) 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・米国大学等 計 10以上</p>	<p>(1) ①②(○) ・進路情報の提供に対する肯定的回答 生徒 88.5%/保護者 81.0% ・進路相談に対する肯定的回答 生徒 86.1%/保護者 81.4% 今後この数値を高めていく。 (2) (△) 1年グローバル科 国語 54.6/数学 53.7/英語 59.5 1年生普通科 国語 51.4/数学 50.9/英語 51.1 2年グローバル科 国語 51.9/数学 51.2/英語 56.7 2年生普通科 国語 51.3/数学 51.5/英語 48.9 ただし、2年数学は来年度選択する生徒。</p> <p>センター試験 13科目偏差値 52以上、3科目 50以上 52未満、2科目 50未満 (○) ほぼ目標は達成したと考えられる。</p> <p>(超難関大学) 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・米国大学等 合格数 1 (昨年度 6)</p>

府立和泉高等学校

	<p>(3) ①外部講師を招聘し将来への高い志を持たせる。 ②1年次より難関大学の見学を行う。</p> <p>(4) ①教育産業担当者による進路講演を実施する。 ②教員の進路指導のスキルを磨く。</p>	<p>(3) ①社会の第一線で認められている人材や難関大学に合格した卒業生などによる講演会を実施する。 ②1、2年生において夏休みに大学のオープンキャンパスに参加させレポートを提出させる。</p> <p>(4) ①(ア) 新入生オリエンテーションで進路講演を実施する。 (イ) 4月の学力生活実態調査の結果を受けて、進路目標達成のための学習方法についての講演を実施する。 ②教育産業と連携し、進路情報や今後の学習指導について助言を受ける。</p>	<p>(難関大学) 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計 75 以上 和歌山大・関大等 計 120 以上 (合格数は累計)</p> <p>(3) ①実施後のアンケートで肯定的な回答 70%以上 ②レポートの提出率 95%以上</p> <p>(4) ①(イ)及び② 年3回(5月、8月、12月)に実施</p>	<p>(難関大学) 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計 125 (昨年度 56) 和歌山大・関大等 計 158 (昨年度 127) (合格数は累計ではなく大学群ごとの数値) 合格数を累計から大学群の個別合格数という厳しい基準に切り替えたが、超難関大学の合格数が減少したものの、難関大学の合格数が大幅に躍進した。(◎)</p> <p>(3) ①(○)講演後に作文を書かせたが、感動を表す記述が多数みられた。 ②(○) ほぼ全員が提出した。</p> <p>(4) (○) 年3回実施した。</p>
<p>5. 心身の障がいや家庭環境などの課題によって修学が困難な生徒を支援する</p>	<p>(1) ①必要に応じて支援チームを組織する。 (2) ①(配置が決まれば)スクールカウンセラーを活用する。 ②支援が必要な生徒の情報共有を図る。 (3) ①授業日において教育相談室の開放をする。</p>	<p>(1) ①外部機関(医師、府教委及びカウンセラー等)、校長、教頭、担任及び校内の教育相談担当者からなる支援チームを組織し支援にあたる。 (2) ①(ア) スクールカウンセラーによる生徒及び保護者への教育相談を実施する。 (イ) スクールカウンセラーから教員が指導助言を受け、支援が必要な生徒及び保護者への教育相談を行う。 ②毎学期末に就学対策委員会を開催し、支援が必要な生徒について情報共有する。必要に応じて全教員で情報共有し、対策を周知徹底する。 (3) ①教育相談係を中心に、授業日の毎昼休みに教育相談室を開放し、生徒の相談に応じる。</p>	<p>(1)(2)(3) 学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)の生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>(1)(2)(3)(○) 学校教育自己診断(教員は親身になって相談にのってくれる)の肯定的回答 89.7%。</p>
<p>6. 教育効果を向上させるため校務改革を実行する</p>	<p>(1) ①教科主任会を定例化し、学習指導を充実させる。 (2) ①企画会議がリーダーシップを発揮する。 ②若手教員を登用する。 (3) ①学年主任と教科主任の権限と責任を明確にする。 ②各科目の担当者を置く。 (4) ①学校協議会を各方面から貴重な提言を得られる機会とする。</p>	<p>(1) ①教科主任会を週1回時間割の中に組み入れ、定例化する。教科主任は学習効果を上げるという責任を自覚し、課題解決のための施策を打ち出す。 (2) ①校長・教頭・首席・指導教諭・グローバル科長・事務長からなる企画会議を定例開催し、校内企画の充実を図る。 ②分掌長や各種委員会の長に若手教員を登用し、新しい発想や提案を取り入れ、校内組織の活性化を図る。 (3) ①学年主任と教科主任の主たる権限と責任事項を明確にし、互いに連携を取りながら生活指導及び教科指導にあたる。 ②教科主任の下に各科目の学習指導及び成績評価に責任をもつ科目担当者を置き、科目指導を戦略的に進める。 (4) ①(ア) 年3回(5月・8月・1月)実施する。 (イ) 学校協議委員以外にオブザーバーとして、卒業生等、教育産業の代表者を招聘する。</p>	<p>(2) 学校教育自己診断職員アンケート 「30代までの若手教員が育ってきている」 肯定的回答 70%以上</p> <p>(3) 生徒による授業評価 「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」という問いに対して 「そう思う」...4、「だいたいそう思う」...3、「あまり思わない」...2、「思わない」...1での評価の2項目の平均 12月の授業評価で、学校平均3ポイント以上</p> <p>(4) 学校協議会より毎回提言をしていただく。</p>	<p>(2) (○) 74.6%</p> <p>(3) (○) 3.16</p> <p>(4) (○) 毎回提言をいただいた。</p>
<p>7. 広報活動の充実を図る</p>	<p>(1) 学校紹介資料・媒体の刷新 (2) ①本校実施の学校説明会の内容充実 ②学校説明の資料改訂</p>	<p>(1) 学校パンフレットの刷新及び学校紹介 VTR の制作 (2) ①本校生徒が主役となるような内容に刷新し、本校の生徒の姿を見て頂く。 ②校外における学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法の工夫・改訂を行う。</p>	<p>(1)(2) 学校パンフレットの配布部数 4500 部以上</p> <p>中学3年生進路希望調査における本校志願倍率 1.5 倍以上</p>	<p>(1)(2)(○) 学校パンフレットの配布部数 4800 部 1月の進路希望調査はでは、グローバル科、普通科とも1.5倍以上の数値であった。</p>